

経済振興委員会報告資料

M I C E 機能強化の検討状況について

令和8年9月
経済観光文化局

M I C E 機能強化の検討状況について

ウォーターフロント地区におけるM I C E 施設に関する現況等については、令和7年12月議会に報告したところであり、今回は、**M I C E の開催動向**、福岡サンパレス及び福岡国際センターについての**老朽化等の状況並びに今後の検討の方向性について報告するもの**である。

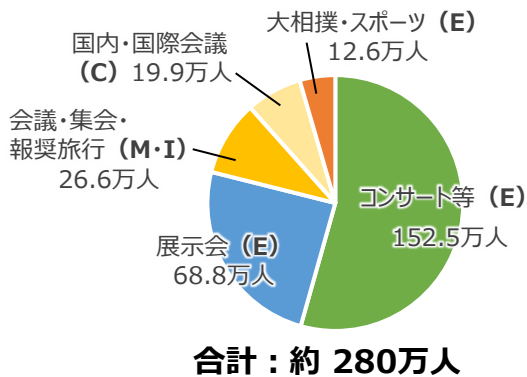
1. これまでの検討状況

1) M I C E の意義・効果

本市では、第10次基本計画に基づき「**M I C E 関連施設が機能的・一体的に配置された M I C E 拠点の形成**」を施策に位置付けている。M I C E の開催は、国内外から多くの来訪者を呼び込み、高い経済波及効果をもたらすとともに、宿泊、飲食、交通、観光など幅広い分野での消費拡大につながる。また、人・企業・情報の交流を促進し、新たなビジネスやイノベーションの創出、都市ブランド力の向上にも寄与することから、本市の持続的な成長を支える重要な取組となっている。

＜令和7年度 ウォーターフロント地区における＜MICE参加者の一人当たりの消費額＞

M・I・C・E催事別入場者数＞



分類	消費額	
	日本人	外国人
[M] 企業会議・集会	46,616円	349,695円
[I] 報奨・研修旅行	43,849円	287,486円
[C] 国際会議	118,468円	331,714円
[E] 展示会・見本市	61,392円	354,124円
[E] イベント	37,132円	171,152円

※出典：令和5-7年度観光庁統計より作成
 ※表中は宿泊あり、国際交通費を除く消費額
 ※国際会議は医療系3大都市圏外の消費額

MICEとは、会議・集会等（Meeting）、企業等が行う報奨・研修旅行（Incentive Travel）、国際機関・団体・学会等が行う会議（Convention）、展示会・見本市、イベント（Exhibition/Event）の頭文字を合わせた造語であり、多くの集客交流が見込まれるビジネスイベントなどの総称。

2) M I C E 開催動向

- **ウォーターフロント地区における令和7年度のM I C E の開催状況**については、令和6年度と比較して**来場者数が増加**しており、**各施設とも概ね高い稼働率**となっている。

＜ウォーターフロント地区におけるM I C E 施設の稼働率※1及び入場者数※2＞

施設	H30年度	R元年度	R2年度	R3年度	R4年度	R5年度※4	R6年度	R7年度
福岡国際会議場※3	79.8%	77.7%	31.8%	43.2%	69.8%	79.1%	79.0%	72.9%
マリンメッセ福岡A館	90.4%	83.3%	14.7%	52.8%	66.1%	98.2%	87.0%	90.0%
マリンメッセ福岡B館	-	-	-	38.8%	32.8%	85.4%	60.2%	69.5%
福岡国際センター	93.7%	80.7%	20.3%	40.5%	62.3%	80.9%	71.0%	73.7%
福岡サンパレス※3	82.8%	73.5%	21.0%	73.9%	83.6%	82.2%	77.5%	81.4%
入場者数	270万人	243万人	25万人	106万人	211万人	212万人	267万人	280万人

※1 稼働率：利用可能日数に対する利用日数の割合（福岡国際会議場のみ室数）

※2 入場者数：千人単位を四捨五入

※3 福岡国際会議場はメインホール・多目的ホール・国際会議室の稼働率、福岡サンパレスはホールの稼働率

※4 令和5年3月～9月は、世界水泳選手権2023福岡大会でマリンメッセ福岡A・B館を利用

3) これまでの取組み

M I C E 関連施設が機能的・一体的に配置された M I C E 拠点の形成に向け、これまでもウォーターフロント地区の再整備に併せて、マリンメッセ福岡B館の整備や、地区のエントランスゾーンに位置する福岡サンパレスの建替えの検討を進めるなど、M I C E 機能の強化に取り組んできた。現在も、M I C E 需要の動向や施設の老朽化状況等を把握しながら、M I C E 拠点のさらなる機能強化に向けた検討を進めている。

＜これまでの施設整備の状況＞

- 令和2年5月 第1駐車場（立体駐車場）の供用開始
- 令和3年4月 マリンメッセ福岡B館及びマリンメッセテラス（大屋根広場）の供用開始



第1駐車場



マリンメッセ福岡B館

■ウォーターフロント地区におけるM I C E施設の立地状況



2. M I C E施設の現状と課題

- M I C E 施設は、開催地として選ばれ続けるため、受入れ環境の充実や利便性の向上、多様化する需要や開催形態に対応した機能の確保が求められている。
- 一方で、施設ごとの長期保全計画等を踏まえ、計画的に修繕を実施しているものの、供用後45年を迎える福岡サンパレス及び福岡国際センターは、**老朽化や機能面の陳腐化が進行**しており、**利用環境の確保や運営効率などの面で課題**が生じている。

1) 福岡サンパレス [開業：1981年5月、主要施設：ホール・ホテル、収容人数：2,322席]

■主な課題

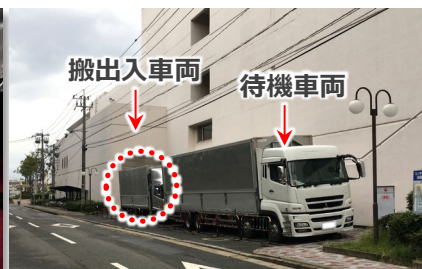
- ・ 設備機器や配管等が、**耐用年数を超え、更新時期を迎えている**
- ・ 来場者用エレベーターがないため、**2、3階席への移動は階段のみ**となっており、**バリアフリー対応が十分ではない**
- ・ **車いす利用者の観覧席は1階席の最後部のみで限定的**となっている
- ・ **搬出入口がトラック1台分のスペースしかなく**、複数台対応が主流となっている近年のホールと比べて搬出入効率が低い



2～3階への来場者動線が階段のみ



車いす利用者は1階席の最後部のみ

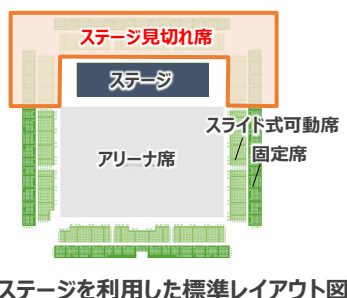


搬出入口がトラック1台分のスペースのみ

2) 福岡国際センター [開業：1981年10月、主要施設：多目的ホール、
収容人数：大相撲 約7,000人、コンサート 約5,000人]

■ 主な課題

- ・ 外壁や屋根防水、設備機器等が、耐用年数を超え、更新時期を迎えている
- ・ 近年の展示場では、大型トラックが直接屋内に進入し、設営できることが主流となっているが、現施設は搬出入口の高さが低いため、大型トラックが進入できず設営・撤去の効率性に課題がある
- ・ 展示場の平面形状が正方形のため、エンドステージ形式のイベントやコンサート等では、見切れ席が多く発生し、客席レイアウトの効率性に課題がある
- ・ 2階、3階席への来場者の主動線が階段となっており、バリアフリー対応が十分ではない
- ・ 座席にクッション性がなく、来場者の快適性に課題がある

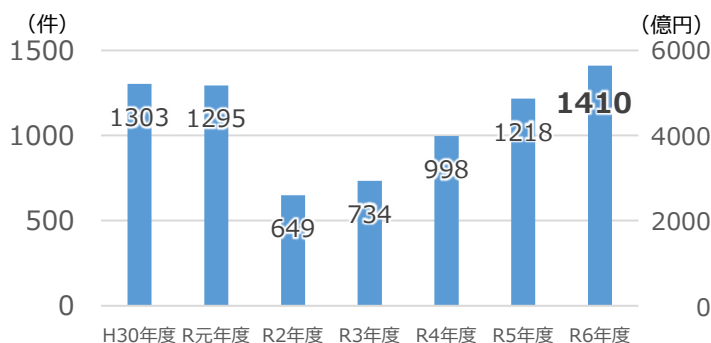


3. M I C E 需要の変化や施設の老朽化等への対応

1) 国内のM I C E 開催動向

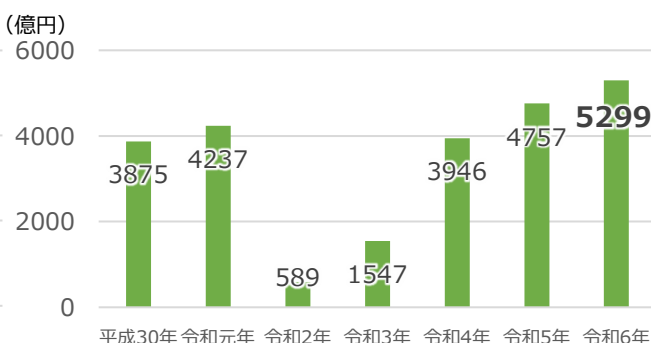
- 国内における展示会・見本市の開催件数は、企業間取引や販路開拓の重要な機会として活用されており、増加傾向にある。
- また、国内における音楽コンサートの市場規模についても、需要の高まりや大型公演に対応可能な施設整備の進展を背景に、拡大基調が続いている。

<国内の展示会・見本市の開催件数>



※ 出典：(株)ピーオーピー「展示会データベース」より作成

<国内の音楽コンサートの市場規模>



※ 出典：びあ総研「ライブ・エンタテインメント白書」より作成

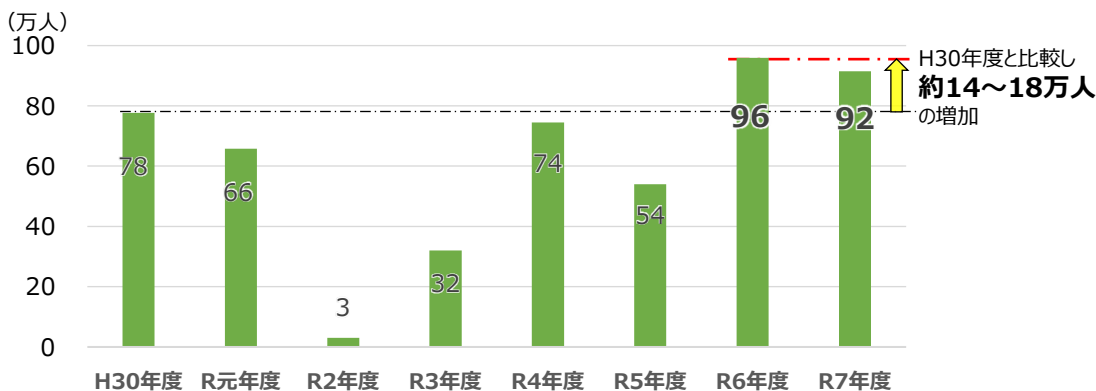
2) MICE需要の変化

○ウォーターフロント地区では、マリンメッセ福岡A館・B館の同時利用による大規模展示会※1の開催や、A館での大型コンサート※2の開催増加などにより、A館の稼働率が非常に高く、新規の受入れが困難な状況となっている。一方、福岡国際センターについては、催事規模の拡大に伴うB館への会場変更や、新型コロナウイルス感染症後の企業個展の減少などにより、展示会の利用日数が減少している。

※1：マリンメッセ福岡A館・B館併用の大型展示会は、令和4～7年度の過去4年間で合計24件、約60万人の来場者

※2：マリンメッセ福岡A館のコンサートの収容人数 約11,000人（エンドステージ）

＜マリンメッセ福岡A館のコンサート・興行（大型コンサート等）入場者数の推移＞



○また、昨今では、主要都市を中心に、展示会場の再整備が進捗するほか、大型コンサートの開催に対応した施設の整備も進展しており、MICE誘致をめぐる都市間競争は厳しくなってきている。

＜主要都市における類似施設の整備事例＞

施設名	所在地	施設規模	開業時期
名古屋市国際展示場 (第1展示館)	名古屋市	平場面積 約20,000㎡、コンサート 約15,000人	2022年
有明アリーナ	東京都	平場面積 約4,100㎡、コンサート 約13,000人	2022年
Kアリーナ横浜	横浜市	コンサート 約20,000人	2023年
愛知国際アリーナ	名古屋市	平場面積 約4,600㎡、コンサート 約17,000人	2025年
(仮称) 幕張アリーナ	千葉市	客席 約20,000席	2030年予定

※出典：各施設ホームページより（コンサート収容人数はエンドステージの場合）

3) M I C E 施設の老朽化や陳腐化への対応

- 福岡サンパレスは、主要設備や配管等が更新時期を迎えるなど**老朽化の進行**に加え、来場者動線や搬出入口などの機能面の陳腐化が生じている。これらの課題については、施設の構造や空間構成上、**抜本的な改善は改修のみでは困難**である。
- 福岡国際センターは、外壁や屋上防水、設備機器などの**老朽化の進行**に加え、バリアフリー対応、搬出入口や客席レイアウトなどの機能面の陳腐化が生じている。これらの課題については、施設の構造や空間構成上、**抜本的な改善は改修のみでは困難**である。
- 加えて、展示会や大型コンサートの需要が増加するとともに、他都市においても類似施設の整備が進んでおり、本市においても**需要構造の変化を踏まえたM I C E 受入れ環境の充実が求められている**。
- このため、両施設の老朽化や機能面の課題の解消に加え、将来的な需要への対応や都市間競争力の強化を図るため、必要な修繕を行いながら、**建替えを含めた対応を検討する必要がある**。なお、現敷地において改修や建替えを行う場合には、長期閉館に伴うM I C E 開催機会の逸失にも留意する必要がある。

4. 検討の方向性

- 福岡サンパレス**については、ウォーターフロント地区のエントランスゾーンに位置し、これまで建替えを前提としたまちづくりの検討を進めてきており、加えて、施設の老朽化等も進行していることから、引き続き、**移転・建替えの方向**で検討を進めていく。
- 福岡国際センター**については、施設の老朽化や機能面の陳腐化が進行しており、**既存施設の改修のみでは抜本的な課題解決が困難**な状況にあることから、**建替えの方向**で検討を進めていく。また、コンベンションゾーンにおいては、近年大型化するコンサートや催事需要への対応が求められていることから、建替えの検討にあたっては、**移転の可能性を含め検討**を進めていく。
- M I C E 機能強化については、引き続き、ウォーターフロント地区のまちづくりの検討と併せ、**関連施設が機能的・一体的に配置されたM I C E 拠点の形成を目指していく**。

■「機能的・一体的に配置されたM I C E 拠点形成」の概念

